

●第1回人権LHRの感想文から●

第1回目は「多様な性の存在」を学習しました。「体の性」・「心の性」・「好きになる性」の組み合わせで多様な「性」が存在することを学びました。「男」「女」だけでなく「両方とも」や「性を決めていない」などもあるので、性の組み合わせはより多数になります。そんな学習の中で、とてもユニークな感想文があったので紹介します。

いろいろな性にそれぞれ名前がついていることで、結局分類を細かくしただけで、その性に対する固定観念などは持ってしまうていました。最後の先生の話で、「性を区画化するのではなく」が印象に残りました。性ではなく、その人として見ていくことの大切さを改めて学びました。

最後の「人として見ていく」という考え方は本当に素敵……。すべての人権課題に通じる視点だと思えます。みなさんも「人として見ていく」中で、様々な絆でつながっていくといいなあと感じました。



☆日常の生活から☆

「ヤングケアラー」という言葉を最近よく聞きます。「ヤングケアラー」とは、本来大人が担うと想定されているような家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことです。年齢等に見合わない重い責任や負担を負うことで、 本当なら享受できたはずの、勉強に励む時間、部活に打ち込む時間など、「子どもとしての時間」と引き換えに、家事や家族の世話をしていることがあります。(調査ではヤングケアラーに該当する高校生は1日3時間、家事や家族の世話をしているそうです。)

みんなの中に「ヤングケアラー」に当てはまる人がいるかもしれません。「これが当たり前なんだ……」と思わずに、担任の先生や人権担当まで相談に来てください。人にしんどいことを話すことは勇気がいらいます。そして、その相談をスタートに人間として成長していく人もいます。

つながりを大切にして、お互い困ったことは助け合える関係が、人権学習の重要な学びだと思えます。

